

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



第 69 回全日本剣道選手権大会



第69回全日本剣道選手権大会

星子啓太

(鹿児島)

が涙の初優勝

3年ぶりに日本武道館で開催



決勝=星子(右)が2本目の面を決めた瞬間



64名の精鋭が勢ぞろいした開会式

第69回全日本剣道選手権大会が11月3日、東京都千代田区の日本武道館で開催され、決勝で、今年3月に長野で開催された第68回大会3位の星子啓太(鹿児島)が同じく同大会3位の林田匡平(福井・丸岡高教)を面を下し、初優勝した。



同大会が日本武道館で開催されるのは2018年以来3年ぶり。また、今年は新型コロナウイルスの影響で初めて同じ年に2度大会が行われた。大会には各都道府県の予選を勝ち抜いた64名が出場。感染防止のため無観客となる中、選手たちは剣道日本一の栄冠を目指して熱戦を繰り広げた。

競技はトーナメント方式で実施さ

れた。試合は3本勝負で、5分の試合時間内に勝敗が決しない場合は、延長戦を行い、先に1本を取った者を勝者とした。
また、前回大会同様、感染対策として、長時間の鏝(つば)競り合いを避けることや試合中のマスク着用などが義務付けられた。

● 1~3回戦

■第1ブロック

過去、本大会で3度の3位に輝いている地白允大(北海道警)は、1回戦を延長の末、小手を決めて勝利。2回戦では全国警察大会で3度優勝している強豪の土谷有輝(大阪府警)に延長で面を決めて、勝利した。3回戦も延長戦で面を決めて接戦をものにして準々決勝へ進出した。



1回戦=村山仁(右)が國友に胸を決める

きで一本勝ち。続く2回戦は全日本学生大会2冠(団体・個人)の矢野貴之(警視庁)と対戦し、鋭い面で勝利する。3回戦も面を決めて勝ち、ベスト8へ駒を進めた。

■第2ブロック

本大会で2度の3位入賞経験のある林田匡平は1回戦で面と小手を決めて勝利すると、2回戦も面を決めて一本勝ち。3回戦では本大会最年少出場の黒川雄大(長崎・筑波大)との対決。林田はこの試合も得意の飛び込み面を決めて勝利。順当に準々決勝に駒を進めた。

本大会初出場の村上哲彦(愛媛県警)は1回戦を面で一本勝すると2回戦も面を2本決めて勝利。3回戦では剣道の強豪校、鹿屋体育大卒の牧島凜太郎(福岡県警)と顔を合わせた。村上がここでも鋭い面を決めて試合に勝利し、初の準々決勝に進出した。

■第3ブロック

本大会2回目の出場となる村山仁(神奈川県警)は1回戦で第67回大会覇者の國友錬太郎(福岡県警)との対決。試合は序盤、國友が先に技を仕掛け、優位な展開を作る。し

かし、村山は落ち着いて相手の動きを見ながら反撃のタイミングをうかがう。試合終盤、國友が面に飛び込んだところを、村山が胸を抜いて一本を先取る。そのまま試合終了となり、村山が勝利を収めた。村山は続く2回戦で反則勝ち、3回戦で過去本大会3位入賞の戦歴を持つ宮本敬太(警視庁)を延長の末、面を下す。強豪選手を破った村山が準々決勝へ。



2回戦=星子(右)が久田松に面を決める

黒川と同学年の太平翔士(栃木・筑波大)は1回戦を延長の末に面を決めて勝利する。2回戦では大会最

年長、矢口二三也(東京・刑務官)と対戦した。試合は大平が小手を決めて一本勝ちした。3回戦では草野龍二郎(大阪府警)に延長戦で小手を決めて勝利。若さ溢れるパワーで頂点を狙う。

■第4ブロック

世界大会日本代表や全日本学生大会個人優勝など、実績のある星子啓太は予選からその強さを存分に發揮。1回戦では延長にもつれ込むも面で勝利し、2回戦の久田松雄一郎(愛知県警)戦は危なげなく勝利を収める。3回戦では大会最年少で、筑波大の後輩阿部壮己(兵庫・筑波大)と対戦。阿部が小手を打つも星子が一瞬早く面を打ち込んで一本を奪い、順当に準々決勝へ進出した。本大会5回出場のベテラン足立柳次(埼玉県警)は1回戦で優勝候補の1人で、第17回世界大会優勝の安藤翔(北海道警)を延長の末に胸を決めて勝利すると、2回戦では三雲悠佑(滋賀・東レ)を面で破る。3回戦でも木島飛翼(宮崎・中央大)から面を奪って一本勝ちし、準々決勝へ駒を進めた。

● 準々決勝

▼準々決勝①

○山田将也 コー | 地白允大
先に仕掛けたのは山田。面に飛び込むも打ち所が悪く決まらない。その後は両者、互いに牽制する時間が続き、試合は延長戦へ。

延長開始後、山田が地白の隙を見て面を打ち込もうとするが、なかなか決まらない。延長1分過ぎ、山田が面を打ち込むと予想した地白がそれを防ごうと腕をあげたところを山田はその一瞬を逃さず小手で一本を奪い、準決勝進出を決めた。

▼準々決勝②

○林田匡平 メーメ | 村上哲彦

試合早々に林田が仕掛ける。遠回しから林田が一気に面に飛び込んで一本先取る。しかし中盤、村上も負けじと林田の剣先が正中線から外れた瞬間に面を決めて一本を取り返す。その後は膠着状態が続く。

その沈黙を破ったのは林田。遠回しから勢いよく面に飛び込んで2本目の面を奪い勝負あり。2大会連続で準決勝へ駒を進めた。

▼準々決勝③

○村山仁 メー | 大平翔士

開始直後勝負に出た大平が小手に飛び込むも一本にならず。その後も大平が技を仕掛け、村山は防戦一方の展開が続く。互いに決め手がなく延長戦へ。

延長に入っても両者の膠着状態が続く。延長1分過ぎに村山が勝負に出る。小手に飛び込んだ大平を面です返して勝利。初の準決勝進出を決めた。

▼準々決勝④

○星子啓太 コー | 足立柳次

開始から積極的に技を繰り出す両者だったが一本を取ることができず延長戦へ突入する。

延長戦に入り、先に仕掛けたのは足立。間合いを取ったところから一気に距離を詰めて面を繰り出すも、一本にならず。勝敗が決したのは延長1分過ぎ。大平が面に飛び込んだところを星子は潜るように体を低くし、大平の小手を素早く打って一本。星子は安定した強さを見せ、準決勝へ。



準々決勝②=林田(右)が2本面を決めて勝利



準々決勝①=山田(右)が地白に素早く小手を決める



準々決勝④=星子対足立は激しい攻防の末、星子が勝利



準々決勝③=村山(左)が仕掛け面に飛び込む



決勝=1本目の面。両者同時に面に飛び込むも、わずかに星子(左)が早く打ち込んで先取した。



準決勝①=林田(奥)が得意の面で一本勝を取めた

準決勝①

林田匡平 × ——— 山田将也
(福井) (愛知)

得意の飛び込み面でここまで勝ち上がった林田と、同じく面を武器に勝利を重ねてきた山田の対戦。序盤は両者、遠くから相手の出方をうかがう。先に動いたのは山田。1回戦から見せていた、一気に間合いを詰めての面を打ち込むも決めきれない。山田は連続で面を打ち込もうとするが、林田がそれを上手く捌く。開始から2分30秒過ぎ、林田が山田の隙を見て一気に間合いを詰めて面を打ち込み、一本を取る。後がない山田は一本を取り返そうと技を仕掛けるが林田は反撃をしのいで逃げ切り、そのまま試合は終了。林田が念願の初優勝を目指し、決勝へ。



攻撃の機会をうかがう両者

決勝

星子啓太 × ——— 林田匡平
(鹿児島) (福井)

決勝は星子と4歳年上の林田による筑波大OB同士の対戦となった。両者はともに前回大会で3位入賞を果たしており、どちらが勝っても初優勝となる。序盤は両者一歩も譲らない展開。しばし、互いの出方をうかがう攻防が続く。開始1分過ぎ、先に前に出たのは林田。剣を素早く動かして面を狙う。しかし、星子はこの剣を上手く捌き、ポイントを許さない。1分40秒過ぎ、ほぼ同時に面に飛び込む。審判の旗は白に3本上がり星子が先取した。後がなくなった林田は一気に攻撃を仕掛ける。今まで仕掛けてきた面だけでなく、胴や小手など素早く技を繰り出していく。しかし、星子は林田の動きを読みながら、それを捌いていく。試合時間が1分30秒に差し掛かるうとうとところ、攻撃のタイミングをうかがっていた星子が勝負に出る。距離を詰めた瞬間、小手を打つと見せかけ、林田が居着いた瞬間を見逃さず、素早く面に飛び込み一本を奪い試合終了となった。

◇ 学生時代に数多くのタイトルを手にしてきた星子が見事、全日本の舞台でも栄冠を掴んだ。インタビューでは、今までの思いがこみ上げたのか涙が滲んだ。

準決勝②

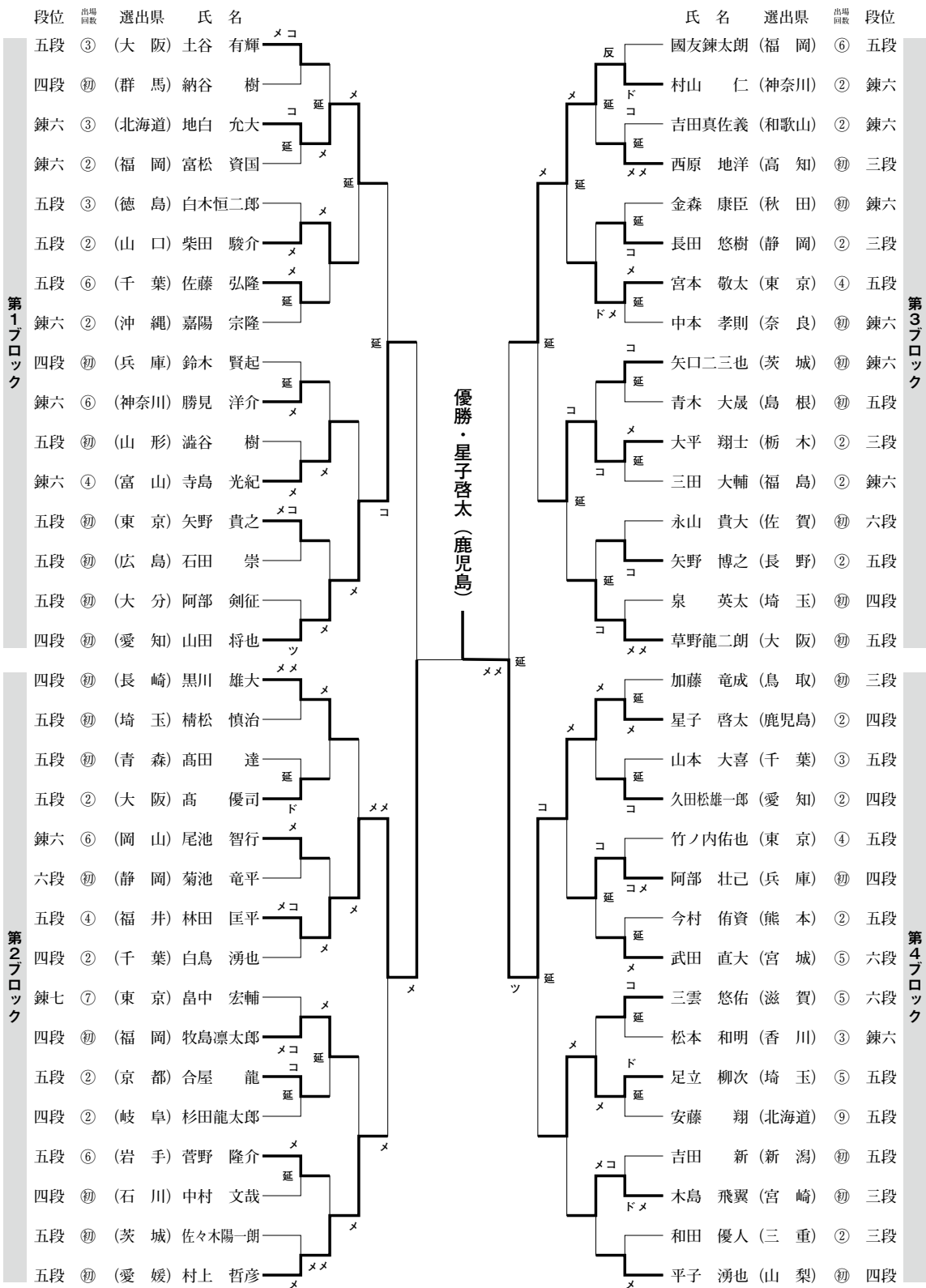
星子啓太 ツ ——— 村山 仁
(鹿児島) (神奈川)



準決勝②=星子(左)が突きを決めて初の決勝へ

相手に1本も取らせず安定した強さを見せる星子と、これまで強豪相手に接戦をものにしてきた村山が対戦。序盤から互いに一瞬の隙も許されない緊迫した展開が続く。徐々に村山が前に出る。しかし、星子は村山の動きを見て上手く捌きながら、出方をうかがう。あつという間に本戦5分が終了し、勝負は延長戦に。延長開始20秒過ぎ、試合が動く。徐々に間合いが詰まったタイミングで村山が小手に出た瞬間、星子が鋭く突いた。白旗は3本上がり、星子が勝利。前回大会の悔しさをバネに勝ち上がった星子が初優勝を狙い、決勝へ駒を進めた。

第69回全日本剣道選手権大会



悔しさと仲間思いを胸に掴み取った優勝
◎星子啓太(鹿児島県)



星子啓太(ほしこ・けいた)

鹿児島県始良市出身。23歳。171センチ。6歳の時に剣道を始める。地元の重富中学校から九州学院高校に進み、高校剣道の4大会である全国高校選抜剣道大会、インターハイ団体・個人、玉竜旗剣道大会、魁星旗争奪剣道大会を制覇。その後、筑波大学に進学し、本大会3位、世界大会団体優勝、全日本学生剣道選手権大会優勝など数多くのタイトルを保持している。

「今年1年間、本当に悔しい思いをしてきました。前回大会で松崎選手に敗れ、リベンジするつもりで稽古をしてきましたが、松崎選手が予選落ちしてしまったため、その分まで私が優勝するという気持ちで試合に臨みました。今年は一月中稽古できる環境にあり、母校の筑波大学の朝練や午後練に参加し、さらに道場が空いている時は自主的に稽古を行ってきました。練習量が多かったこともあり、自分が一番稽古をしてきたと胸を張って試合に臨むことができました。決勝戦の1本目は小手や引き技で、来年もこの舞台に立てるよう一から精進していきます」

▽準優勝Ⅱ林田匡平(福井)



「今年こそは優勝するという気持ちでやってきましたので、決勝は気力と体力を振り絞って挑みましたが、打たれてしまいました。この大会に向けて3月の前回大会から攻めの部分と面を強化してきたので、それが結果に繋がったと感じています。今回は初戦から強豪選手だったので、そこを乗り越えれば上位までいけるのではないかなと感じていました。決勝は無我夢中で臨んでいて、気がついたら試合が終わっていました。星子選手は守りが堅いので、構えを崩し、足を動かして攻めることを意識していました。しかし、最後は相手の攻めに対して無理をして攻め返してしまっただけで、そこが敗因だと思います。来年は優勝しかならないかと思っています。また1年間、一から作り直す気持ちで稽古していきたいと思えます」

▽3位Ⅱ山田将也(愛知)



「小さい頃から憧れていた舞台だったのですが、初出場で3位に入れたことが自分にとって幸せなことだと感じています。今回は自分のペースで試合を進めることを心がけていましたが、準決勝ではそれができなかったことが敗因だと感じています。次の目標は今年3位に終わった全日本実業団剣道大会でチーム優勝を果たすことです」

▽3位Ⅰ村山仁(神奈川)



「狙ったところが打ち切れなかったところが今回の敗因だと思います。最後の場面は自分の動きを相手が見て突いてきたので、それを返せなかったのが悔しいです。今後は自分の剣道にさらに磨きをかけて上位を狙っていききたいと思います」